

平成7年(1995年)8月21日  
第82回『21世紀塾』参考資料  
(第2回提言)

## 『伊豆縦貫自転車道(兼・歩道) (仮称 スーパー・サイクル・ロード伊豆21)』への期待

『21世紀塾』代表世話人 小野 徹

### 【問題提起】

伊豆は日本一の観光地だと言われている。

しかし、その割には交通アクセスが貧弱で、近年ようやく「伊豆縦貫自動車道」という大動脈の建設が動き出したところだ。

伊豆半島に血を通わせる為に、一日も早い開通が待ち望まれるが、それでこと足りるのかといえば、残念ながらそうではない。

特に、修善寺町以南の、中伊豆、西伊豆地域にとっては、一部に海路があるとしても、自動車でしか移動できないという、大変はハンディ・キャップが残されたままになってしまう。

これで良いのだろうか。

これで、日本一の観光地を維持、発展させることができるのだろうか。

勿論、伊豆箱根鉄道の延長や、モノレール等の建設が可能であれば、それにこしたことはないだろうが、ここではむしろ、将来の伊豆が目指すべき「滞在型リゾート」に合わせた、「自転車道(兼・歩道)」の建設を提言したい。

しかも、これを「伊豆縦貫自動車道」ならぬ、すべての道路と立体交差で結ばれる「伊豆縦貫自転車道(兼・歩道)」とすることを、ここに提言したい。

もともと伊豆は、「滞在型リゾート地」として、これ以上ないほど恵まれ、しかも、バラエティーに富んだ地域の連合体でもある。

しかし、そのバラエティーに富んだそれぞれの地域から地域までは、すぐ近くにあるとはいえ、交通手段は自動車に頼らざるを得なくなっている。

――リュックを背負って歩いている若者たちも、たまには見かける。

しかし、道路は本当に安全だろうか。

リゾート地の道路だ。――誰でもが、安心して、ぶらぶらと歩いているのだろうか。残念ながら、そうは思えないし、将来的にも、投資効率(?)の面からすれば、こ

これらの整備が進むとは考えにくい。

しかし、せつかくのリゾート地である

確かに、これからも、駆け足でしか伊豆を訪れることができない旅行者は多いだろうが、安い費用でさえあれば、一ヶ所に長逗留して、のんびりと、しかも充実した休日を過ごしたい滞在希望型もあるだろう。

自らの健康の為に、自分の足で、動き回りたい人もあるだろう。

前や後ろの車に気兼ねすることなく、自分や自分たちのペースで、道々の自然に触れ、景観を楽しみながら、ちょっと遠くまで足を伸ばしてみたいと希望する人もあるだろう。

――それが、我々の目指す「滞在型リゾート・伊豆」の本当の姿ではないだろうか。

これらの一助として、伊豆の玄関口三島から、下田まで、できるだけ高低差をつけない、「人にやさしい道」として「伊豆縦貫自転車道（兼・歩道）」の実現を、是非とも期待したい。